

**助成年度：平成 29 年度**

[所属] 岩手大学 農学部

[役職] 助教

[氏名] 山崎 朗子

[課題]

## **核酸クロマトグラフィー法を用いたジビエの危害性微生物の網羅的調査に関する研究**

[内容]

野生鳥獣による農作物・森林被害を受けている地域では、損害防止策として野生動物駆除を行っており、捕獲したシカやイノシシの肉をジビエとして食用に有効活用する地域振興事業が行われている。しかし、野生鳥獣は成育環境において多くの微生物に暴露される可能性が高く、既に野生獣肉の喫食による食中毒例も報告されている。その病原体は細菌、ウイルス、寄生虫と広範囲にわたっている。このような事例は、野生獣肉の衛生面の不安を消費者に残すため、地域振興の要となる 6 次産業として期待されるジビエ産業において早急に解決すべき点である。

本研究では、この問題点の解決として、食肉利用を目的とする捕獲野生動物（主にシカ・イノシシ）が保有する危害性微生物を捕獲現場において迅速簡便に検出できる検査法を提案する。本検査法は、各危害性微生物の病原性を保有する因子の遺伝子を標的とした核酸クロマトグラフィー法を原理としたものである。標的遺伝子は、細菌では接着性、侵入性、毒素、分泌性因子遺伝子、ウイルスではコア蛋白遺伝子、寄生虫では虫体蛋白遺伝子などを候補とする。動物の捕獲時に、本研究が提案する一般人でも実施可能な迅速簡便病原体検出キットで安全性を確認した個体の処理を優先して実施すれば、生産効率の向上に加えて安全性という付加価値が付いた野生獣肉の生産が継続され、ジビエ産業振興の大きなステップとなる。